

優良賞

「ありがとう」を言われる人

真鶴町立真鶴中学校二年 関 凧

「助け合い」と聞くとあなたは何を思い浮かべますか。沢山の人が「支え合うこと」や「互いを思い合うこと」などの言葉が出てくると思います。そして私もそう思います。

ですが、「助け合いをしてください」と言われた時、皆さんはすることができま
すか。支え合う？思い合う？何をすればいいのか分からない。と言う人が大半でし
よう。

私は助けることができなかった。

学校終わり重い鞆を背負い帰宅するとき、一人のおばあちゃんが大きな荷物を
両手に、不安定な体で階段を下っていました。階段から落ちてしまったら、怪我を
しちゃったら、と私は足を止めました。声を掛けようとしたとき不意に、嫌な顔を
されて断わられてしまったら？と考えその場に立ち止まりました。数十秒考えた
私の決断は助けない。止めた足を再び動かし、家に帰りました。

数日後、私がスニーカーを持ちグリーン車に乗りました。なかなか席は空いて
おらず私は家族と離れ、お爺さんの隣に座ることになったのです。特に話すことも
ないので、私は気にせず座りました。

数駅通過した頃に乗って来た中年の男性が私の前に座り、座席の椅子を勢いよ
く倒してきました。すると足元に置いていたスニーカーは倒れ、置き場がなくな
り、家族も離れていて、どうしようもなくなってしまった時です。隣に座っていた
お爺さんが「こっちに置いて良いよ」と声を掛けてくれ、その優しさに救われまし
た。

その時、私は数日前の自分の行動を思い出しました。恥をかきたくないと無視し

てしまった自分と、関係ないにも関わらず、助けてくれたお爺さん。情けない自分が恥ずかしくなりました。

鎌倉校外学習の日、クラスのメンバーと満員の電車に乗り、私はなんとか座ることができました。その時私は前でおばあちゃんがふらふら立っているのに気づきました。席を譲ろうと考えると、同時に断わられたらどうしよう、とあの日と同じ考えが浮かびました。

ですが私は同じことを繰り返したくないとおばあちゃんに声を掛けました。そんなおばあちゃんは私に笑顔で「ありがとう」と言い座ってくれました。

私はその笑顔を今でも忘れられません。助けて断わられてしまうことは怖いことでも、恥でもない。誇れること。それが私は助け合いだと思ふ。そしてこれから助けた勇気を忘れずに「ありがとう」を言われる人になりたいと心に強く思いました。